

再生 南栗橋

～災害に強いまちを目指して～

☆地下水位低下等の状況について

2019年8月時点において4、6、8丁目は、沈下が収束傾向にあり、沈下量も少ないことから民地部は観測を終了し、官地部は観測頻度、方法（自動計測→手計測）を変更するとともに、家屋事後調査に着手いたしました。

一方、7、10、11、12丁目は、更に自動計測を1年間継続（2020年8月まで）してまいりました。

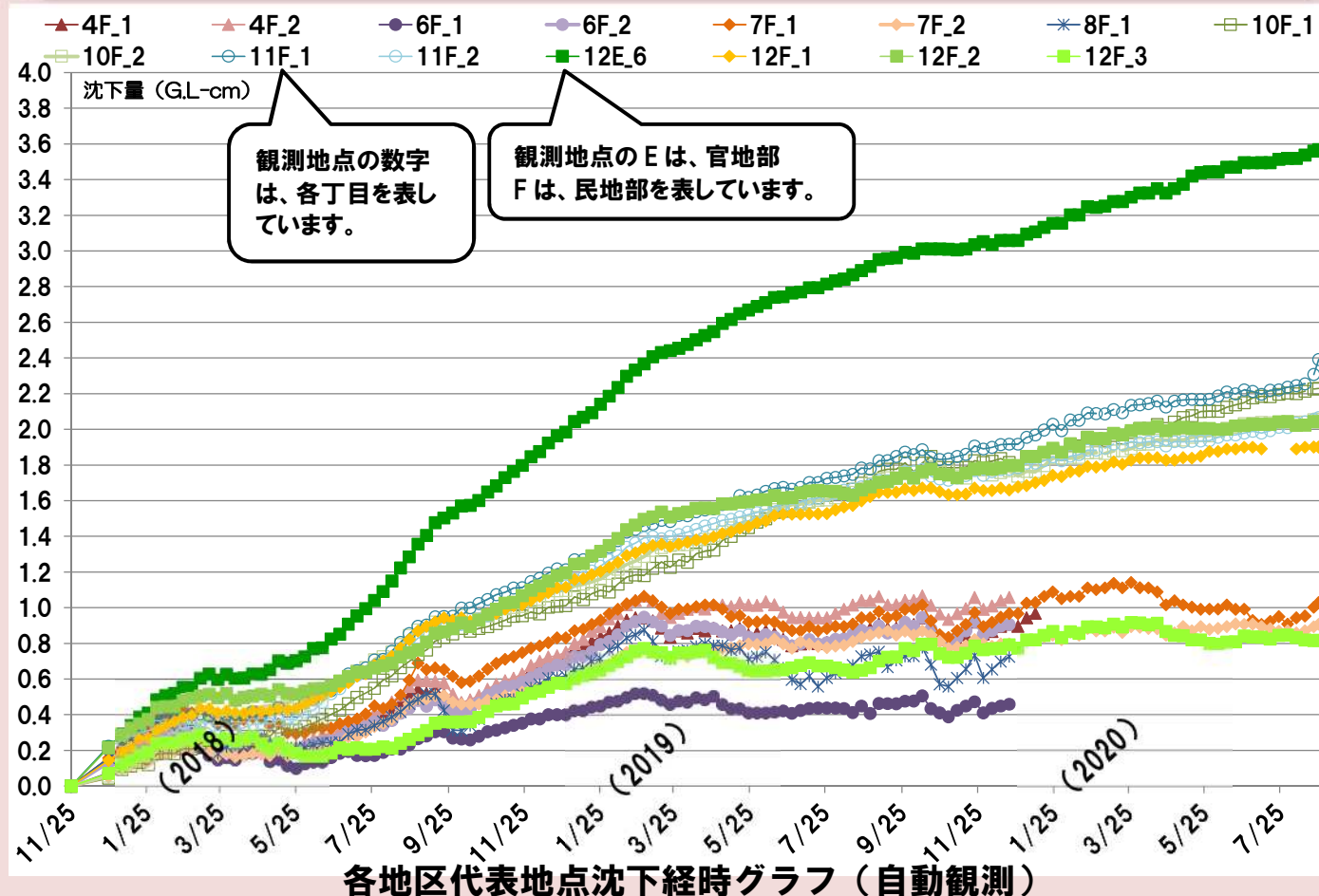
この度、これまでの観測結果および今後の予測解析について、第20回久喜市液状化対策検討委員会（2020年9月28日開催）に諮ったところ、下記の確認がされました。

[事業の影響]

- ・観測状況より2020年8月25日時点で水位低下による沈下の影響は警戒管理値（沈下量4cm、傾斜角2/1000）内に収まっている。
- ・今後の予測においても限界値内（傾斜角3/1000）に収まっている。
- 地下水位低下の影響は当初の想定範囲内に収まっている。

[事業の効果]

- ・降雨後に所定水位までの低下が確認されている。
- M9、地表面最大加速度202gal程度の地震に対する顕著な被害の可能性の低い地区となっている。



◆観測状況等について◆

【地下水位の状況】

地下水位低下から33カ月（段階低下9か月+24か月）が経過した2020年8月25日時点において、各地区とも道路部は目標水位に達しており、民地部も液状化に対して所定の強度が確保できる水位まで低下しております。

【地盤沈下の状況】

2020年8月25日時点における地区の沈下量は、最大で36mm、傾斜角は、最大1.03/1000程度で、限界値として設定している傾斜角3/1000以下となっております。

7、10、11、12丁目についても4、6、8丁目同様、今後は観測頻度（1回/6カ月）、方法（自動計測→手計測）を変更いたします。

☆今後の進め方について

委員会での確認結果を踏まえ、各地区について下記の対応を行います。

なお、事業完了予定の2022年3月以降も各地区のポンプの稼働およびメンテナンスは継続実施いたします。

[計測]

- ・2021年度まで計測を継続する（頻度：1回測定/6か月、計測手法：沈下-地表面水準測量、水位-ロープ式水位計）

[機器撤去]

- ・4、6、8丁目、地区外の官地部観測機器撤去に着手
- ・7、10、11、12丁目の民地部、官地部観測機器撤去に着手

[家屋調査]

- ・7、10、11、12丁目の家屋事後調査に着手
- ・調査完了後、必要に応じ補償対応（詳細は別途通知）

[委員会]（事業の完了報告）

- ・第21回久喜市液状化対策検討委員会：2022年3月頃を予定

◆観測データは公表しています📄

水位・沈下のデータについては、久喜市ホームページにて公開しています。下記アドレスにてご覧いただけます。

http://www.city.kuki.lg.jp/kurashi/bosai_bohan/bosai/daishinsai/minamikurihashi/tikasuii.html

【問い合わせ先】

◇久喜市 都市整備課 都市施設整備係
0480-22-1111（内線4671・4672・4673）

◇相談窓口（電話）
0120-914-772（通話料無料）